

横浜市資源リサイクル事業協同組合様の取材を終えて

2019年8月5日

はじめに

横浜市資源リサイクル事業協同組合は横浜市内のリサイクル事業者が集まって形成されている協同組合である。ステークホルダーである市民の環境意識の向上とリサイクル事業に対するイメージアップを目的に数多くのCSR活動に取り組んでおり、これまでに様々な認証や表彰を受けている。

CSR 事業

小学生を対象に環境に関する絵日記を募集する「環境絵日記」やアルミ缶回収を通じた環境教育をする「アルミ缶もったいないプロジェクト」、リサイクルに関する授業を行う「出前講師」などの子供に向けた活動から、市内の飲食店と連携して活動している「横浜リユースびんプロジェクト」や市民の皆様へリサイクルについて知ってもらうための「季刊誌 RD の発行」などの活動まで、幅広く CSR 活動に取り組んでいる。

また、資源回収で集めた資源を使って作られた「リサイクル製品の販売」や「リサイクルポート山ノ内の見学会」にも力を入れている。

CSR 事業を通してめざすもの

循環型社会に向けた社会の変革をふまえ、社会的企業として組合・リサイクル業界が提案・行動し、市民や事業者、行政と連携・協力し合って循環型社会を担っていく地域社会のことを指す「リサイクルデザインタウン」の形成を目標として掲げている。

まずは、市民の皆様へリサイクルの大切さについて知ってもらうこと、未来を担う子供たちの環境意識を高めること、リサイクル事業の重要性に気づいてもらうことを目指して CSR 事業に取り組んでいる。